

## ADS3000+が南極で運用開始！！

2015年5月におこなわれたEuropean VLBI Group for Geodesy and Astrometry (EVGA2015)にて、ADS3000+が南極にあるオヒギンス局(ドイツのDLRとBKGが運用)にて無事に運用を開始したとの報告がありました(Neidhardt et al, 2015)。

オヒギンス局は古いアナログシステム(VLBA4)を更新する計画があり、デジタル信号処理システムなど最新のデジタルバックエンドシステムに更新する予定でした。

ADS3000+は他のデジタルバックエンドとの試験をおこない、電源のオンオフなどでも再帰性がよく、非常に高く安定していたそうです。このため、南極などの極地、リモートサイトでは高い信頼性が必須で、今回の採用となりました。

現地ではADS3000+のデジタル信号はMITヘイスタック観測所開発のMark5B+によって記録されます。DBBCに必要な各種パラメータやモニター信号はField system(アンテナ駆動などメインサーバー)で一括してやりとりされます。

古いバックエンドとの並列記録によるVLBIセッションがすでに複数回おこなわれ、相関局からのフィードバックは“good data quality and performance”とのことです。

(KT記)



南極にあるオヒギンス局(写真はDLRウェブサイトより)

オヒギンス局のアップデートでADS3000+が採用。記録はMark5B+でおこなわれる。(Neidhardt et al, EVGA, 2015の発表資料より)

